

# 令和4年度鳥羽市環境保全審議会議事録

開催日時：令和5年2月17日（水）

13：30～15：00

開催場所：鳥羽市民体育館 中会議室

## 報告事項（1）とばの海を守るプロジェクトについて

～事務局による説明～

《質疑応答》

（委員）

SNS ピリカは元からあったアプリか、鳥羽市が作ったアプリか。

（事務局）

株式会社ピリカという会社が作った誰でも使えるアプリです。市が委託して、鳥羽市内で投稿されたものだけが見える化ページに反映され、一目で市内のごみ拾い状況が分かるようになっています。

（委員）

ごみの量を簡単に集計できると記載されているが、写真から大体のごみの量がわかるようになっているのか。

（事務局）

投稿者に自分で数値を入力してもらいます。

（会長）

2月1日の運用開始から、反響はあったか。

（事務局）

マスコミから、雑誌や新聞の掲載依頼はよくいただきます。SNS ピリカのダウンロード数は不明で、ごみ拾い投稿した人数だけしかわかりません。

市職員が月に一度、第二火曜日にごみ拾いをしているが、参加者は全員アプリを入れているか。

（事務局）

アプリの登録は強制ではないので全員が登録しているわけではないです。できるだけ使ってもらえるよう周知はしています。

（委員）

市内のごみ拾いをしている企業に積極的にPRしてみてもどうか。

(事務局)

PRの仕方の発案は株式会社ピリカに委託しており、鳥羽市と一緒にPRをしていくかたちになっています。その提案もピリカからいただいて、今後、実行していきたいと思っています。

#### 報告事項(2) ゼロカーボンシティ宣言について

～事務局による説明～

《質疑応答》

(委員)

宣言にするにあたって、市長が特に力を入れたいところはどこか。

(事務局)

海が鳥羽市の特徴なので、海を活用した鳥羽市ならではのブルーカーボンの対策を、とのことでした。

#### 報告事項(3) 鳥羽市レッドデータブックについて

～事務局による説明～

《質疑応答》

(副会長)

鳥羽市の中のどこが主体になってレッドデータブックを作るのか。

(事務局)

市役所内では観光課が主体になっています。

#### 報告事項(4) 浄化槽要綱の変更について

～事務局による説明～

《質疑応答》

(委員)

補助金は何件と制限があるのではなく、申請されたものは全て補助が出るのか。

(事務局)

予算の範囲内で補助というかたちになります。今までの実績である程度予測して予算計画しています。

(委員)

予算総額はいくらか。

(事務局)

来年度は約 1000 万円です。

(委員)

浄化槽の設置費はどれくらいかかるものか。

(事務局)

設置費はものによってまちまちで地形や土地の形状によって大きく変わります。国の方針としては大体設置額の 6 割の補助金が出るようになっています。

### 報告事項 (5) 公害の種類別苦情について

～事務局による説明～

《質疑応答》

(委員)

動物関係の公害とはどのようなものか。

(事務局)

「公害苦情処理簿」です。問い合わせの件数も入っています。例えば、「イノシシが山から下りてきて道に居る」、「近所の犬の鳴き声がうるさい」、「犬が放し飼いされている」などといったものです。

(会長)

動物の死骸処理の問い合わせも入っているか。

(委員)

市外処理は別に記録をつけています。ただ、市民の生活上に影響のある死骸であれば公害苦情処理簿の数に入っていたりします。

(会長)

大気汚染が令和 3 年度までずっと多く、3 年度で減り、また 4 年度に増えているが、理由はあるのか。また、野焼きはまだやっている人がいるのか。

(事務局)

大気汚染苦情のほとんどが野焼きです。大気汚染苦情の増減の理由としては、野焼き苦情を大気汚染として処理しているか、悪臭として処理しているかその時々での処理の仕方によって変わっていると思われます。

(委員)

この処理簿は、国あるいは県からの依頼で記録をつけているのか。

(事務局)

そうです。国の調査でこのようなカテゴリーで分けて提出する形になっています。

(委員)

この表から何を読み取って、どういう感想を持てばいいのか、鳥羽市民にとってわかりにくい。国の調査とは別に、もう少しわかりやすい鳥羽独自の項目別の表を作ってみてはどうか。

(副会長)

どのようなものが不法投棄されているか。

(事務局)

解体瓦礫のようなものやビニール袋など、産業廃棄物から一般廃棄物まで様々な場所で散見されます。海に放り込まれた事例もあります。

## 報告事項（6）その他について

～事務局による説明～

《質疑応答》

(委員)

ガソリンの使用量が減少したのはコロナが原因か。

(事務局)

コロナの影響もあります。近頃、会議などは出向かず、オンラインですることが増えてきたので、仕事の仕方が変わってきたのも原因にあると思います。

(委員)

庁舎における LED の設置率だが、7.5%しか導入できていないのはあまりにも少なすぎると思うがどうなっているのか。これが50%くらいにでもなれば電気量も減って、すごい削減になると思う。

(事務局)

この導入率は低すぎると自覚しております。

(会長)

長い目で見れば、CO2 排出量の削減のほかにも、電気代の削減にもつながるし、真っ先にやるべきことだと思う。

(事務局)

地球温暖化防止、脱炭素をしていくうえで、一番取り組みやすい項目であることは市長をはじめ、職員も思っているところです。脱炭素宣言をして、環境課はもちろん、市役所全体で脱炭素を促進しなければならない中で、今後の取り組みの中でも重点課題として目を付けているところなのですが、予算の面もあって難しいところもあります。来年良い報告

ができるよう努力します。

(会長)

電気自動車はよく使われているか。

(委員)

そもそも外出する機会が少なくなったので、電気自動車の走行距離は徐々に減っています。

(会長)

電気自動車は何年使っているか。

(委員)

平成 28 年の 1 月から約 6 年です。

(委員)

鳥羽市内の充電スタンドの設置数はこれから増やす予定があるか。

(事務局)

県の方針に従っています。今のところ増やす予定はありません。

(委員)

森林の間伐状況は始まって 5 年はすごい勢いだが、最近は減っている。理由は何か。

(事務局)

間伐の詳細については農林商工課が担当しておりますので、後ほど回答します。

(農水商工課より回答)

間伐の減少については、国や県からの補助金によって行われており、年々支給される補助金が減っていったため、間伐できる面積も狭くなっていった。

(委員)

鳥羽市の CO2 の排出量は定期船が大部分を占めており、逆に言えばここを対策すれば CO2 の削減はできそうだが、何か対策できるものはあるか。もし、観光の振興を図るとなれば、定期船の運航数も増え、CO2 の排出量も増えるし難しい話ではあるが。

(事務局)

定期船については、まだ電気船などのエコ船が実用化されていない現状なので、定期船自体を脱炭素化していくのは難しいと思います。別の脱炭素できる事業をしながら CO2 排出量を相殺していけるカーボンニュートラルの仕組みができればいいなと思いますが、今はまだそれも研究段階です。